

【研究論文】

感動教材としての絵本

～道徳教育の授業実践から～

キーワード：道徳科・絵本・感動教材

浦田 誠 一 (Urata Seiichi)

I はじめに

研究テーマ「道徳的雰囲気をもたらすよりよい学級経営」を継続的に研究してきた。この研究は「よりよい学級経営」を目指すために道徳教育を中心に研究することを目的としている。今までの研究の中で道徳科の授業で感動資料を扱う場合、絵本を用いた方が児童の考えがより深まることがわかってきている。そこで今回も、この道筋に立ち「特別の教科 道徳」の授業の在り方を感動教材に視点をあて絵本を使用して研究するものである。過年度研究において、感動教材を絵本のまま提示することにより、学習者は主題とする道徳的価値を理解し、自分事として考え、よりよく行動していこうとする意欲を持つことが示唆されている。しかし、この過年度における研究は、低学年の2学級での授業実践の児童の考えや思いの比較のため、変化や違いが一時的な現象であり、研究の方向として錯覚に陥っている場合があるという新たな課題も生まれてきた。そこで、本研究においては、高学年における感動教材を用いた授業を実践することにする。

II 研究方法

児童ひとり一人の道徳性に着目し、感動教材として絵本を使用した結果、自らの行為を考えるとところまで意識が高まるか実践事例に基づき分析、考察する。

本研究の目的は、特別な教科「道徳科」において学習のときに用いる読み物教材を教科書中心に提示するか、教材文のもとになった絵本やお話を教材として提示するかを授業実践で比較し、道徳科の授業で感動教材の絵本を用いても心情理解に終わらず道徳的判断・道徳的実践意欲態度を培うことにつながるか検証する。また、本研究においては過年度研究実践の、感動教材「ともだちをたすけたぞうたち」の実践とも比較、検討する。

『リカレント研究論集 (3)』(2023.3)

感動教材としての絵本～道徳教育の授業実践から～(浦田誠一)

課題: 小学校の特別の教科「道徳科」の学習において、絵本などを用いた感動教材の提示は、「ねらい」とする道徳的価値観によりせまることができる。

1 道徳教材の提示仕方違いによる授業実践。

- A 感動資料の出典である絵本を用いて原文のまま読み聞かせて提示する授業展開
- B 感動教材を教科書の掲載のとおり教師が範読し提示する授業展開

2 提示の仕方の違いによる中心発問に対して児童がどのように変容したか

評価: ルーブリックを用いたパフォーマンス評価による検討。

- A 実験群: 4年A組 感動教材を絵本で提示。
- B 統制群: 4年B組 教科書の感動教材をそのまま提示

※ねらいとする価値・中心発問・学習カード・授業者・授業評価(ルーブリック)は実験群と統制群は同じとする。

3 本研究調査の実施校 長野県長野市立〇〇小学校 4学年 ※5

Ⅲ 研究結果と考察

1 道徳科における読み物資料

道徳科の授業で用いる資料は、資料そのものが持つ性質によると、知見資料、葛藤資料、感動資料などに分類することができる。

知見資料とは、資料の中の具体的な道徳的価値を知識理解するものと考えることができる。(価値理解を深める内容をもつ)

葛藤資料とは、登場人物の心の葛藤に結末を与えず未解決の状態にとどめておき、自分ならその葛藤状況をこう解決する、と判断させるものと考えることができる。(モラルジレンマ資料など)

感動資料とは、主人公等の心情に寄り添い、考えや行為に感動し、道徳的実践意欲を高めるものと考えられる。本研究実践においては、感動資料を用いるものとする。

2 道徳科の感動教材についての近年の動向

読み物資料3分類のうち「感動資料」について

(1)「中央教育審議会 教育課程企画特別部会 論理整理(平成27年8月26日)の道徳教育」(文科省)について(以下 抜粋)

① 学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の根幹となるものである。

- ② このような資質・能力の育成を目指す道徳教育においては、既に学習指導要領が一部改訂され、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から、「特別の教科 道徳」(道徳科)が実施されることとなっている。本「論点整理」が目指す「これからの時代に求められる資質・能力の育成」や、「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善を先取りし、「考え、議論する」道徳科への転換により児童生徒の道徳性を育むものであり、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方や他者との関わりについても考えを深める学習を通して、道徳的判断力、道徳的心情や道徳的实践意欲と態度を育てるものである。
- ③ 道徳の特別教科化は、これまで軽視されがちだったと指摘される従来の道徳の時間を検定教科書の導入等により着実に行われるように実質化するとともに、その質的転換を図ることを目的としている。
- ④ 特に、後者の「考え、議論する」道徳科への質的転換については、子供たちに道徳的な実践への安易な決意表明を迫るような指導を避ける余り道徳の時間を内面的資質の育成に完結させ、その結果、実際の教室における指導が読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏り、「あなたならどのように考え、行動・実践するか」を子供たちに真正面から問うことを避けてきた嫌いがあることを背景としている。このような言わば「読み物教材」から脱却し、問題解決型の学習や体験的な学習などを通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結び付け、更に習慣化していく指導へと転換することこそ道徳の特別教科化の大きな目的である。
- ⑤ 義務教育においては、従来の経緯や慣性を乗り越え、道徳の特別教科化の目的である道徳教育の質的転換が全国の一つ一つの教室において確実に行われることが必要であり、そのためには、答えが一つではない、多様な見方や考え方の中で子供たちに考えさせる素材を盛り込んだ教材の充実や指導方法の改善等が不可欠である。
- ⑥ なお、道徳科は、改めて、教育課程全体を通して道徳教育の成果を上げるために、その核となる役割を果たすことを求めて実施を図るものである。そのために、道徳科と各教科等との関係性を明らかにすることを通して、教育課程に占める道徳科の位置付けを明確にする必要がある。
- ⑦ このように、道徳の特別教科化を着実に実施するため、文部科学省には万遺漏なきよう諸施策に取り組むことを求めるものであるが、質的転換の進展状況を踏まえ、学習指導要領も含めた道徳教育の在り方については常に見直し、改善することが重要である。
- ⑧ 次期改訂においては、先んじて導入された小・中学校における道徳科の内容を踏まえつつ、高等学校における道徳教育の在り方について、公民科等における内容の充実・改善と併せて検討を行うことが求められる。

以上8点の中の④では、「実際の教室における指導が読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏り、『あなたならどのように考え、行動・実践するか』を子供たちに真正面から問う

ことを避けてきた嫌いがあることを背景としている。このような言わば『読み物教材』から脱却し、問題解決型の学習や体験的な学習などを通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結び付け、更に習慣化していく指導へと転換することこそ道徳の特別教科化の大きな目的である。」としている。

ここでは、「読み物教材」から脱却が示されている。読み物教材から道徳的判断力や道徳の実践意欲と態度に重点が置かれている。続いて次のような報告が出されている。

(2)「道徳教育に係わる評価等の在り方に関する専門家会議」(平成28年7月22日)における「特別の教科 道徳」の指導方法・評価について(報告)について
翌年の「道徳教育に係わる評価等の在り方に関する専門家会議」(平成28年7月22日)における「特別の教科 道徳」の指導方法・評価について(報告)では、読み物教材について登場人物に自分を投影してその判断や心情を考えることで道徳的価値が深めることができる。」と指摘している。以下に抜粋する。

①道徳教育の質的転換を実現するために

- 「道徳科においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考え深める学習を通じて、内面的資質や能力としての道徳性を主体的に養い、日々の生活や将来における道徳的行為や習慣に結びつけるという特別な教科としての特質を踏まえた質の高い多様な指導を行うことが求められている。」とあり、質の高い多様な指導が求められている。
- 「道徳的特質を踏まえ、主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合いや読み物教材の登場人物の心情理解に終始する『読み取り』指導の双方を避けつつ、これまで積み上げてきた指導上の蓄積を生かしながら問題解決的な学習を体験的な学習などを含めた質の高い多様な指導方法に関する実践や研究を深め、教育界としてその成果を共有することが必要である。このような基盤こそ、児童生徒に現状や実態を踏まえた効果的な指導を通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考え、自分と異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的諸価値について多面的・多角的に学ぶ道徳教育への質的転換を図ることが可能となる」とあり、質の高い多様な指導の必要性を示している。

②質の高い多様な指導方法として

- 「道徳教育の質的転換のためには、質の高い多様な指導方法の確立が求められており、本専門家会議においては多様な指導方法の実践的な取り組みについてヒアリングを行った。そこで出された道徳の質の高い多様な指導方法は『別紙1』に示すとおりであり、それぞれの特長は以下のとおりである。」とある。
そして以下の3点あげている。
 - 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
 - 問題解決的な学習
 - 道徳的行為に関する体験的な学習

このうち「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」については次のように示している。

○読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

○問題解決的な学習

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に係わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的活の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

ここで言う「自我関与」とは、(参考)

「教材との対話」、「他者との対話」、「自己内対話」を通して、自分とのつながりの中で道徳的価値について考えることである。

簡単に言えば「自我関与」とは、資料の登場人物と自分を重ね合わせ自分事としてより深く考え道徳的諸価値についての理解をしていくことではなかろうか。

(https://www.mitsumuratosho.co.jp/kyokasho/s_dotoku/keywords/vol106.html)

参考文献：光村図書 小学校道徳 キーワード 第6回「自我関与」とは解説 淀澤勝治. 2022. 7. 29 ※4

このように「読み物教材」について一度は「脱却」を示唆されたが、すぐに認められたのであろうかという疑問について 荒木寿友氏は放送大学教材「道徳教育論」の中で「従来から実践されてきた道徳の授業のほとんどが、読み物教材でなされてきたという既成事実を踏襲したことが考えられる。読み物教材を除外してしまえば、教育現場に大きな混乱をもたらすのは想像に難しくない。現実的な路線として読み物教材を残した上で、それが単なる心情理解に(気持ちを等だけの授業)に偏らないために積極的に我が事として道徳的価値を理解していくことをねらったといえる。」(貝塚茂樹・林 泰成. 「道徳教育論」. p173. 放送大学教材. 2021) と示している

今までの読み物教材を使った道徳の授業において登場人物の心情理解にだけにとどまる授業であったのであろうか。

3 絵本を道徳的教材として用いた特別の教科「道徳」

(1) 感動教材として絵本を特別の教科「道徳」に活用する意義(今までの研究で明らかになってきていることを含む)

特別の教科「道徳」の時間を児童にとって「ためになる楽しい」感じさせるには、授業者が当該学級に目指したい学級の姿を具体的に持つことが必要である。

道徳科の学習を学級経営の基盤をなす重要な学習活動と位置づけると、教師と児童が共に学び合うことができ、教師の思いや考えを伝えることができる。このような点からも特別の教科「道徳」の1時間の学習では、目の前の児童と共に児童にとってより良い学級集団とはどのような学級集団か共有できることを意識して授業を構想することが必要になる。

そこで、本研究の柱1として全員が道徳の学習が面白いと感じ、授業者の学級に対する思いを児童と共に考えることができる授業のために「絵本」の活用について研究する。現在の児童の中の6%～13%何らかの発達特性を持っていると言われ、一学級に3人～4人は在籍していることになる。それらの児童以外にも聴覚優位の児童や視覚優位の児童が多いといわれ、日々の学習や生活で学びにくさや生活しにくさを感じて困り感を持っている。

特にこのような特性を持つ児童に対して、絵本の良さを考えると、「文章が簡潔でわかりやすく耳に入ってくるやすい。また、その文に関係する挿絵がいっしょに載せられているので文章読んだだけでは、なかなか理解することが難しい児童にとっても視覚的を通して内容を捉えることができる。」という、合理的配慮が期待できる。そのまま教科書を使った場合は、見たりさわったり教科書自体が気になったりしてしまい刺激が多い。

「絵本」の読み聞かせにより全員が絵本の世界に浸り、主体的に授業に参加できる。そのことにより、自然な形で道徳の一般化ができる。授業後も絵本を学級文庫や学校図書館など気軽に児童の手の届くところに置くことでいつでも振り返ることが容易であると考えられる。

(2) 特別の教科「道徳」の教科書と絵本

①「きみがいちばんひかるとき」(光村図書)に掲載されている教材資料の中で絵本や本で提示できる主題は多くあるが、すべての資料がそのまま道徳の授業の資料として有効に働くとは限らない。やはり、資料の選定には、本時の主眼を達成するための有効性を聴覚的要素・視覚的要素・理解しやすさ・分量、そして何よりも児童の実態から見た教師の教材観などから見て考えなければならない。

②本研究における「きみがいちばんひかるとき」(光村図書)から絵本や本として提示可能な主題として。1学年「はしのうえのおおかみ」 2学年「ともだちをたすけたゾウたち」 3学年「ともだちや」があげられる。

過年度研究では、2学年の「がんばれアヌーラ」のかわりに、絵本「ともだちをたすけたゾウたち」を資料として提示して研究実践をしてきた。

そこで、本研究では同じ「きみがいちばんひかるとき」(光村図書) 小学校4年生に掲載されている教材資料「花さき山」を原作の絵本を感動教材として使用し比較検討することとする。(参考文献: 道徳『きみがいちばんひかるとき 1年生～6年生. 2020. 光村図書)

2 特別の教科 「道徳科」における評価

(1) 小学校道徳科の学習活動

①道徳的諸価値について理解する

- ・内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解する。
- ・道徳的価値は大切であっても中々実現することができない人間の弱さなども理解する。
- ・道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考えた方は一つではない、多様であるということをも前提として理解する。

②物事を多面的・多角的に考える

- ・児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えること。
- ・多面的とは、道徳的価値のもつ様々な意義、大切さ、難しさ、多様さという様々な側面から考えること。
- ・多角的とは、中心となる道徳的価値と、他の道徳的価値を関連させて考えること。

③自己の生き方についての考えを深める

児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくこと。

その際、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方を確かに想起したりすることなどを意識して指導することが重要である。

(小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編・平成29年7月・文部科学省)

(2) ルーブリックに基づくパフォーマンス評価

① ルーブリック

学習の評価基準を授業前に設定し、その評価基準に基づいた尺度により、学習の達成度を評価したり、評価基準に基づいたパフォーマンスを記録して評価したりすることと考える。また、作成したルーブリックをあらかじめ学習者に開示し目標とすることもある。

② ルーブリックの設定

例えば「算数」は、単元や1時間の授業のねらいや主眼を明確に設定できる。また、理解度もペーパーテスト尺度により評価できる。それに比較して道徳性は「頭ではわかっている」レベルから「実際に実践するレベルまで」多様である。「頭でわかっている」段階

も大切なその子にとっての道德性なのである。道德科でのルーブリックはわかり・考える段階と自分事として考える段階とこうしたいという道德的実践段階の3段階をあらかじめ設定して評価することが必要である。※1

4 授業指導案

「花さき山」

- (1) 教科書：出典『きみがいちばんひかるとき』4年 光村図書P120～127「花さき山」
絵本・齋藤隆介、『花さき山』.1969.岩崎書店 ※2
- (2) 授業学級 4年A組 4年B組 ※5
- (3) 主題：人の心の美しさ
- (4) 内容項目：D感動、畏敬の念
- (5) ねらい：やさしいことをすると一つの花が咲くという山をめぐる物語を通して、人の美しい心に対して感動や畏敬の念を感じ取らせ、その心を大切にし、さらに深めていこうとする心情を育てる。
- (6) ねらいとする価値

美しいもの、気高いもの、崇高なもの、人間の力を超えたものとの出会いは、私たちに深い感動や畏敬の念を抱かせてくれる。このような感動や畏敬の念は人間としてのあり方を見つめなおす契機となるに違いない。

確かに、生活面では多くの物質に囲まれることで豊かになったといえるだろう。しかし、果たしてそのことがかえって、美しいものを美しいと感じる瞬間すら奪っているのではないだろうか。自然の美しい風景、壮大な絵画や音楽といった芸術作品、人の心にある優しさや清らかさや温かさ、いずれの出会いも人間にとって感動をもたらしてくれる大切なものである。

このように素直に感動する心を児童の内側に育てていくにあたっては、何より私たち大人が、美しいものや崇高なものへの感性を失わずに、児童に向き合っていくことが大切である。

(7) 展開

段階	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点・評価
導入	1 花さき山と聞いて、どんな山か考える。	「美しい心とはどんな心でしょう」 ・優しい心・思いやりのある心 ○「花さき山」とは、どんな山だと思いますか。 ・いろいろな花が咲いている山かな。	○花が咲くということが、美しい情景を暗示していることに気づかせる。 ○児童の意識の流れを大切にしながら「読んでみましよう」を進める。○資料の提示の仕方を工夫する。

		資料提示の方法 1 絵本提示 児童—絵本の読み聞かせを聞く 資料なし 指導者—絵本で読み聞かせをする。 絵本「花さき山」 齋藤隆介作 滝平二郎絵 岩崎出版 4年A組において実施 2 教科書提示① 範読提示 児童—教科書 道徳教材 きみがいちばんひかると 光村図書 4年生 「花さき山」 4年B組において実施	
展開	2 花さき山 を読んで考 える。 3 物語を自 分にひきつ けて考えを 深める。	①この話を読んでどんとこころに 心を動かされましたか。 「おっかあ おらはいらね、そ よさ買ってやれと言ったとき」、 あやは、どんな気持ちだったで しょう。 ②この花はどんな祭り着の花も ようよりもきれいだべ。と言わ れてあやは、どんなことを思っ たでしょう。 ・私が咲かせたなんて信じられ ない。 ・あのときはつらかったけど我 慢してよかった。	○感想を学習カードにまとめさ せてから発表させる。 ○あやの我慢したときの気持ち がどんなものであったかおさ え、想像を膨らませる。 ○あやの美しい心が花を咲かせ たことに気づかせる。 また、山一面に美しい花が咲い ていることに気づかせ、たくさ んの人の優しさや気高さにあふ れていることに気づかせる。 ○手が進まない児童には、「あや に手紙を書いてみよう」と促す。
終末	4 感想を考 える。	○この話を読んでどんなところ に心を動かされましたか。	○今日の授業で心を動かされた ことを簡単に書かせる。

(8)教材観

道徳的価値：畏敬・崇高とは、

美しいものや気高いものに感動する心や人間の力をこえたものに対する畏敬の念をもつこと。科学が進歩し続ける現代社会においては、科学の発展を期待しつつも人間の根本的な原理、理性の力を信じるとともに、私たちが言葉では、説明できない美への感動や、崇高なものに対して、尊敬や畏敬の念をもち、私たちの在り方を見つめ直すことが求められている。美しいものに触れて素直に感動する気持ちや、気高いものや崇高なものに出会ったとき尊敬する気持ちなどを、児童の心の中に育て培うことが大切である。

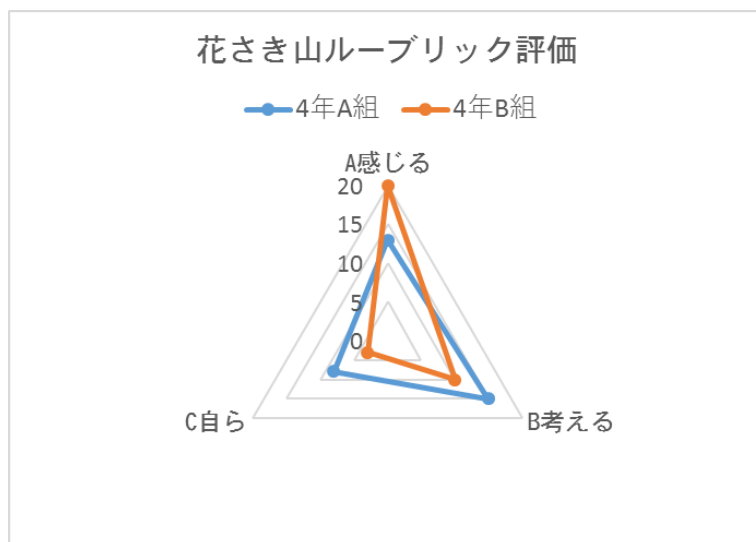
5 実践授業

「花さき山」(感動 畏敬の念) ルーブリック評価 ※1

	A 感じる	B 考える	C 自ら
小学校四年	登場人物のからすばらしい姿が感じられる。(すごい・すばらしい・やさしいなどー第1次的感想)	資料と重ねあわせて自分の考えを持つ。(行為者と自らを重ね合わせて)	友だちと考えを交流して自分はこうしたいという考えを持つ。(道徳的判断・道徳的实践意欲)

ルーブリック評価

	A 感じる	B 考える	C 自ら
	登場人物のからすばらしい姿が感じられる	資料と重ねあわせて自分の考えを持つ。	友だちと考えを交流して自分はこうしたいという考えを持つ。
4年A組	13 36%	15 42%	8 22%
4年B組	20 61%	10 30%	3 9%



A 組

非達成率 (A) 13 人 36%

達成率 (B+C) 23 人 64%

B 組

非達成率 (A) 20 人 61%

達成率 (B+C) 13 人 39%

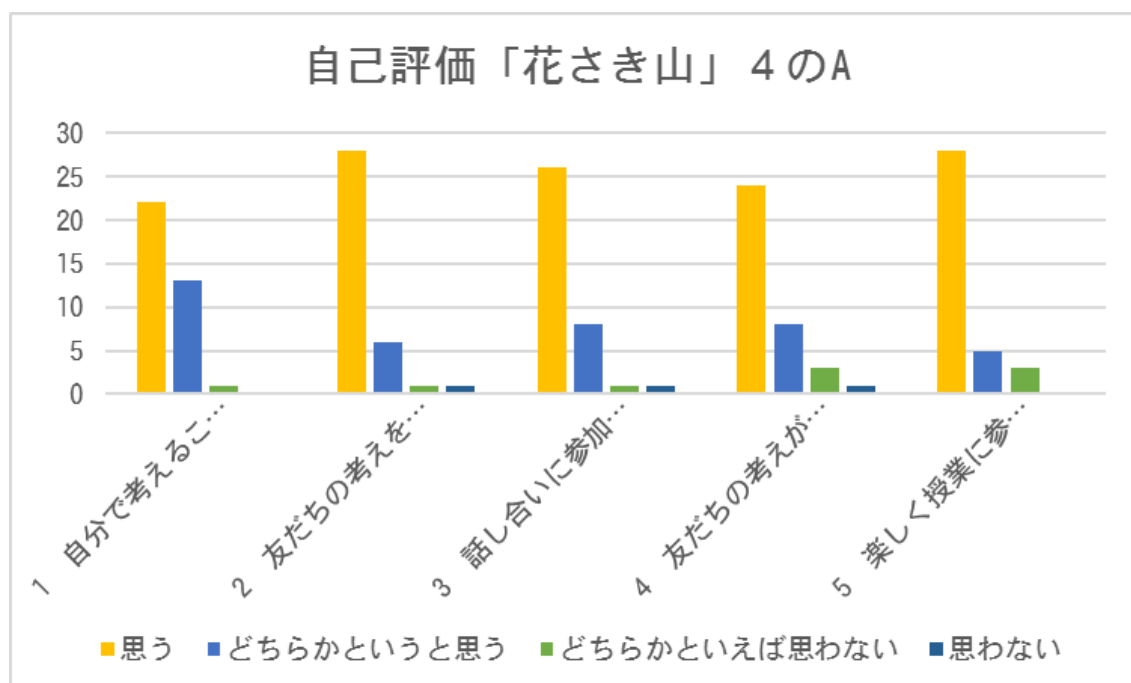
4のA 授業評価

A 思う B どちらかというと思う C どちらかというと思わない C 思わない

	A	B	C	D
1 自分で考えることができた	61.1% 22	36.1% 13	2.7% 1	0
2 友だちの考えを聞くことができた	77.7% 28	16.6% 6	2.7% 1	2.7% 1

3 話し合いに参加できた	72.2% 26	22.2% 8	2.7% 1	2.7% 1
4 友だちの意見が参考になった	66.6% 24	22.2% 8	8.3% 3	2.7% 1
5 楽しく授業に参加できた	77.7% 28	13.8% 5	8.3% 3	0

% ○人

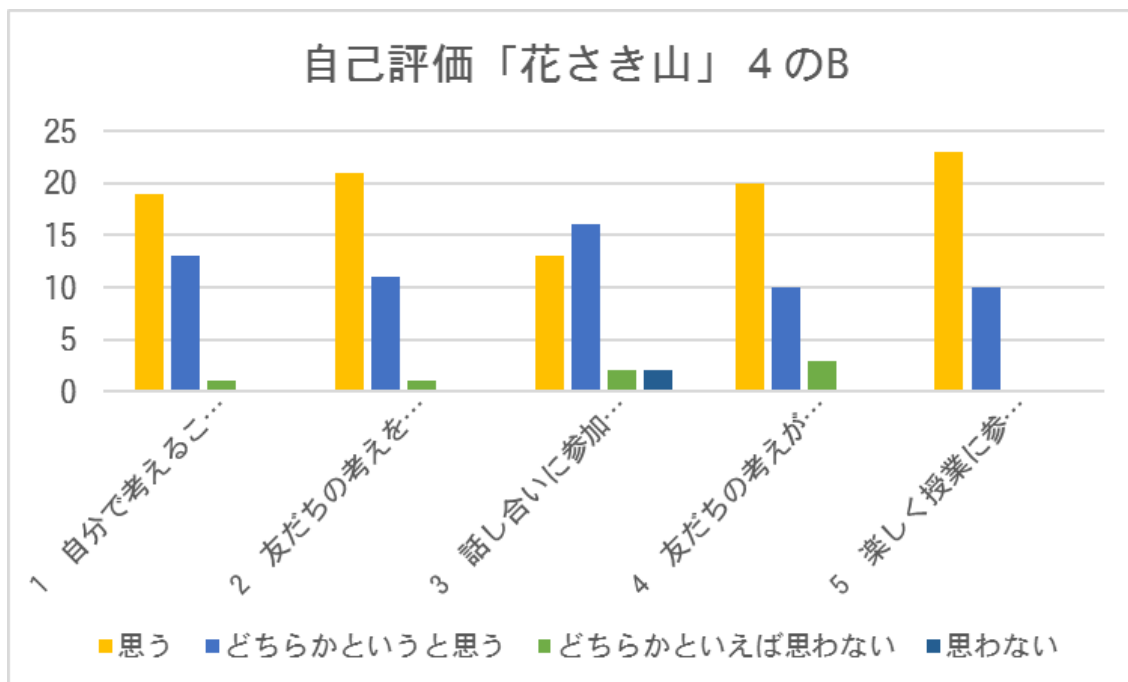


4のB 授業評価

A 思う B どちらかというと思う C どちらかというと思わない C 思わない

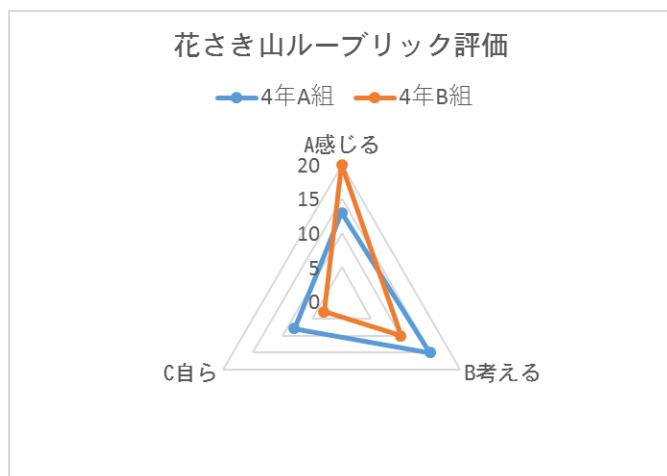
	A	B	C	D
1 自分で考えることができた	57.7% 19	39.3% 13	3.0% 1	0
2 友だちの考えを聞くことができた	63.6% 21	33.3% 11	3.0% 1	0
3 話し合いに参加できた	39.2% 13	48.4% 16	6.0% 2	6.0% 2
4 友だちの意見が参考になった	66.6% 20	30.3% 10	9.0% 3	0
5 楽しく授業に参加できた	69.6% 23	30.3% 10	0	0

% ○人



2021年 2年A組・B組における「ともだちをたすけたゾウたち」のルーブリックを用いたパフォーマンス評価

	A 感じる	B 考える	C 自ら
	すごい・優しいなど 1 次的感想	資料の行為者と重ねあわせて考える	友だちと考えを交流して仲間や他者を思う気持ちを持つ
2年A組	12 38%	13 40%	7 22%
2年B組	15 50%	13 43%	2 7%



A 組

非達成率 (A) 12 人 38% :

達成率 (B+C) 20 人 62%

B 組

非達成率 (A) 15 人 50% :

達成率 (B+C) 15 人 50%

IV 結論

本実践は、道徳科の授業で、教科書通りの読み物資料を使った授業と読み物資料のもとにした絵本やお話しを感動教材として提示し、評価基準としてルーブリック評価を作成しパフォーマンス評価をすることで、2つの資料提示の方法ではどちらがより児童の考え議論する道徳として価値理解に迫れるかを実践するものである。

まず、4年A組のひとり一人が中心発問から考えた意見をルーブリック評価した割合を結果から見ると(表)36人中8名がルーブリック評価でC「自ら」にプロットされ全体の22%にあたる。これは統制群として実施した4年B組の9%よりも多く見られた。また、B「考える」・C「自ら」をあわせた達成率で見てもA組64パーセント、B組39%とより深く考えている児童が見られた。2年A組・B組で行った研究実践と比較してもほぼ同様の結果が得られている。

2年A組 Cが7人で22% 達成率としてみたB+Cが20人で62%である。

B組 Cが7% 達成率としてみたB+Cが50%である。

この結果から、道徳の授業は読み物資料の提示の仕方により児童がより深く考えることができると言える。2つの実践から特に、絵本など感動教材を読み物資料として提示した方が資料に興味を持ち、ひとりひとりが考えを深めることにつながる。

次に、授業後の自己評価を見てみたい。4件法を用いて授業後の自己評価アンケートを行った結果、絵本を資料として提示した4年A組と教科書の資料をそのまま提示した4年B組では明らかな相違が見られる。

・A組においては、アンケート5項目のすべてで「そう思う」を選択した児童が60%を超えている。4項目では3分の2以上の児童が「そう思う」を選択しているにいたる。

・特に「そう思う」を選択した児童が多かったのは次の3項目である。

2: 友だちの意見を聞くことができた。 77.7%

3: 話し合いに参加できた。 72.2%

5: 楽しく授業に参加できた。 77.7%

3項目目の「話し合いに参加できた。」の「そう思う」はB組の約2倍 選択されている。

以上のことから、感動教材として絵本を用いた道徳科の授業は、道徳科における授業改善として現学習指導要領で掲げられている「考え、議論する道徳」の実現する立場で考察すると「友だちの意見を聞いて自分の考えをより深め、進んで話し合いに参加し、楽しい授業を体験できた。」となろう。

最後に、本研究は前年度からの継続研究である。授業比較をして研究してきたが、その変化が一時的な現象であり、研究の方向として錯覚に陥っている場合があるという考えも持っていたが、他学年や他資料について研究することで感動教材として絵本を用いることの良さ、「絵本を用いて聴覚的・視覚的に読み聞かせた方が、資料中の登場人物と自分を重ね合わせ、集中してより深く自分のこととして考えることができる学習活動ができると考え

『リカレント研究論集 (3)』(2023.3)

感動教材としての絵本～道徳教育の授業実践から～(浦田誠一)

る。」が明らかになりつつある。

今後の研究課題として、道徳の授業における絵本を用いた資料提示を他学年やほかの主題でも研究を続けながら、感動教材と絵本の研究を深めていく。

VI 参考文献

- ・道徳『きみがいちばんひかるとき』1年生～6年生. 2020. 光村図書
「学校における例外措置」による引用記載
- ・石丸憲一. 『ループリック評価を取り入れた道徳科の授業のアクティブラーニング』.
2016. 明治図書 P49. P54 ※1
- ・齋藤隆介. 『花さき山』. 1969. 岩崎書店 ※2
- ・貝塚茂樹・林 泰成. 『道徳教育論』. 2021. 放送大学教育振興会. 放送大学教材※3
- ・道徳教育に係わる評価等の在り方に関する専門家会議. 平成 28 年 7 月 22 日. 文部科学省
- ・中央教育審議会 教育課程企画特別部会 論理整理. 平成 27 年 8 月 26 日. 文部科学省
- ・『小学校学習指導要領. 特別の教科 道徳』. 平成 29 年 3 月. 文部科学省
- ・『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』・平成 29 年 7 月・文部科学省
- ・(https://www.mitsumuratosho.co.jp/kyokasho/s_dotoku/keywords/vol106.html)
光村図書 小学校道徳 キーワード 第6回「自我関与」とは解説
淀澤勝治. 2022. 7. 29 ※4

※1・2・3・4 引用にあたり出版社より許可を受ける。2022. 10. 10

※5 長野県北部地区 A 小学校

受理日：2022 年 12 月 17 日

浦田 誠一

八洲学園大学 リカレント研究センター リカレント研究員